

令和元(平成31)年度 事業報告書

自 平成31年 4月 1日

至 令和 2年 3月31日

令和2年 5月21日

学校法人 金蘭千里学園

1. 法人の概要

単位：名

項目	高等学校	中学校	備考
設置する学校	金蘭千里高等学校	金蘭千里中学校	
入学定員	180	180	
在校生徒数	484	600	令和元年5月1日現在
教職員数	55	60	令和元年5月1日現在

2. 事業の概要

・金蘭千里中学校・高等学校における事業の基本的な概要

以下の項目・内容を基本・原則として、教育事業を展開した。

男女共学 1学級30人

学習指導

○カリキュラム

併設型中高一貫校としてのカリキュラムによる効果的、効率的学習

英語・数学・国語は、基礎科目として時間増

理科・社会は、広範な科目を履修することによる幅広い進路選択への対応

○20分テスト

通常授業を重視し、原則として月～金曜日の朝に成績評定を決する復習テストを実施し、成績状況を授業や個別指導にフィードバックすることによる学力の向上、定着

○特別授業

学力の補足、練成のための、夏季・冬季・春季長期休業期間における特別授業の実施

生活指導

担任を中心とした個人指導の徹底

スポーツ

○校技

男子はサッカー、女子はバレーボールを校技と定め、6年間を通じた指導により全生徒が共通のスポーツとして習得

○他種目

校技に加え、学年によってテニス、バスケットボール、卓球、ハンドボール、バトミントン、剣道、男子バレーボール、女子サッカー等を選択履修

国際理解／キャリア教育

○中高6年間の発達段階と生徒の個性と能力に応じた進路指導のため、外部講師による講演や職業体験などを通じた、単なる大学進学指導に止まらない幅広い進路指導

・ネイティブ・スピーカーである教員による英語指導

・外務省や国際機関、外国公館を通じ派遣された専門家による、国際事情の理解を深めるための講演

・民族学博物館の見学による異文化理解

・イギリス海外研修（イートン校・ハロウ校）＜希望者のみ＞

・能楽、狂言、茶事、落語といった日本の伝統文化体験

・本校卒業生による進路決定に至る体験の講演

・職業選択に至るプロセスに関する講義や、医療従事者、起業家等の専門家を招いた講演

- 野外活動
 - キャンプ・自然研修
 - 各学年キャンプ又は自然研修旅行の実施による自然体験
 - 徒歩訓練
 - 北摂の自然に触れるオリエンテーリング形式の行事の実施
- 情操教育
 - 音楽鑑賞
 - 国内外の一流のアーティストによる演奏鑑賞の実施
 - 合唱祭
 - 中学生・高校一年生が運営企画するクラス対抗のコンクールの実施
- 情報教育
 - I C T環境を整備し、eメール、インターネット等の基礎技術の修得や各教科学習の補助に資するとどまらず、情報化社会に対応する情報処理モラルの涵養
- 自主性の涵養
 - クラブ活動の充実を図ることにより生徒の多様性に対応するとともに、生徒に多面的な負荷をかけることにより「勉強を頑張りクラブ活動も頑張る」スタイルを確立させ、多彩な活動ができる人材を育成
 - 生徒会活動や文化祭、体育祭の運営を通じた独創性と自発性の涵養

・当該年度の主な事業の計画・目的

- I C Tを活用した教育の実践
 - ・ 昨年度までに、生徒全員が一台のタブレット端末を所持する状況に対応できる校舎の施設整備を完了し、今年度本格的に運用を開始する。
 - ・ 運用開始にあたり、教科、学年及びI C T担当者が連携して、導入するアプリの選定、授業での運用方法の研究をすすめ、教育効果を最大限発揮できる体制を整える。
- 生徒の学力、人間力向上に向けた取り組み
 - ・ 年間の学力判定のための各種試験のスケジュールの再構築や、習熟度別クラス編成の実効性の向上、校外での研鑽機会の拡大などを今年度実施する。これにより生徒の学習へのモチベーション向上や人間力の向上を図り、さらには大学入試改革に対応する能力を培う。
- 校舎の有効活用と再整備の検討
 - ・ 校舎新館（仮称）の建設予定地や収容すべき具体的な施設の具体的な決定に向け、教育環境の変革に対応した校舎のあり方の検討を深度化し、具体的時期、プランの決定に向けた検討を進める。

・当該計画の進捗状況

- I C Tを活用した教育の実践
 - ・ 令和元年6月には、高校3年生を除く全生徒が各自タブレットを所持し、学校でのI C Tを活用した授業展開に対する体制を整えた。その上で前年度より選定を進めていた使用アプリを順次導入の上、I C T機器を活用した授業を展開した。
 - ・ 新型コロナウイルスの流行による令和2年3月の休校期間において、通常の間割に則ったオンライン授業を在校全学年において展開するなど、整備したI C T環境を最大限活用した。

□生徒の学力、人間力向上に向けた取り組み

- ・中学校3年生と高校1年生で導入している英語、数学の習熟度別クラス編成において、その実効性を高めるため、学期ごとの入れ替え制を導入し、特に中位層の生徒の緊張感持続や、モチベーションの向上を図った。
- ・「全国学力推移調査」の導入を始めとした外部試験の整理及び校内テストである課題テストや総合テストを最適化し、学力把握や進路指導の充実に資した。
- ・予め年度初めより時間割に組み込むことで教科会議を常例化し、教科内での情報共有を進めICTの活用を含めた授業内容の向上を図った。

□校舎の有効活用と再整備の検討

- ・新校舎へ収容する施設の検討を進め、千里金蘭大学施設の借用となる講堂と、クラブの拡充などにより、拡充が必要となっている体育関連施設を中心とする方針で詳細の検討を進めた。
- ・最終的な事業費確定に向けた条件の整理を行い、次年度早々に建設予定地の地質調査などを進める準備を整えた。

以上